

畜産経営環境保全実態調査について

平成 29 年 7 月 1 日現在

滋賀県農政水産部畜産課

1. 畜産経営農家戸数

畜産経営農家戸数は168戸であり、飼養畜種の内訳は乳用牛48戸、肉用牛77戸、豚4戸、採卵鶏31戸、肉用鶏8戸となっている。戸数の増減については、前年に比べて、乳用牛1戸、肉用牛3戸、豚1戸、採卵鶏2戸それぞれ減少しており、肉用鶏の増減はなく、合計で7戸減少した。

畜種	農家戸数	前年	飼養戸数 対前年比(%)	管理基準適用状況	
				基準対象	基準以下
乳用牛	48	49	98.0	48	0
肉用牛	77	80	96.3	70	7
豚	4	5	80.0	3	1
採卵鶏	31	33	93.9	19	12
肉用鶏	8	8	100.0	2	6
計	168	175	96.0	142	26

※資料 ・表1 畜産経営農家戸数および管理基準適用戸数

・図1 畜産経営農家戸数および管理基準適用戸数の推移

2. 畜産経営に起因する苦情の発生状況（注1）

畜産経営に起因する苦情の発生件数は13件で、昨年と比較して1件減少した。

苦情発生率（注2）は7.7%（前年8.0%）となり、前年より減少した。

内容別にみると、悪臭関連が12件であり、このうち、害虫発生を伴うものが5件、水質汚濁を伴うものが1件あった。

畜種別発生件数は、乳用牛が3件、肉用牛が2件、豚が1件、採卵鶏が6件、肉用鶏が1件であった。

	苦情の内容								対応策			
	水質汚濁	悪臭発生	害虫発生	水質汚濁 悪臭発生	水質汚濁 害虫発生	悪臭発生 害虫発生	その他	計	処理施設 助成	処理衛生 技術指導	紛争の 仲介	その他
乳用牛		2					1	3	1	2		
肉用牛		2						2		1	1	
豚						1		1			1	
採卵鶏		2				4		6		3	3	
肉用鶏				1				1			1	
その他												
計		6		1		5	1	13	1	6	6	

注1：発生件数は当該年の7月1日までの1年間に市町等行政機関に届け出られたもの

注2：苦情発生率＝発生件数／畜産経営農家戸数

※資料 ・表2 畜産経営に起因する苦情の発生状況

・図2 年次別苦情発生件数

3. 家畜排せつ物の処理と利用について

家畜排せつ物の年間発生量（注1）は、乳用牛 56 千トン、肉用牛 165 千トン、豚 11 千トン、採卵鶏 17 千トン、肉用鶏 3 千トンで、合計 252 千トンと推定される。

処理方法別の仕向け量は、発酵処理が 223 千トン（88.3%）、乾燥処理が 21 千トン（8.4%）、直接還元処理が 8 千トン（3.3%）となっている。

堆肥の利用状況は、豚の尿の浄化放流 2 千トンを除き 99.1%が肥料や土づくり等で農業利用されており、その利用先内訳は自己所有圃場 46 千トン（26.8%）、他人所有圃場 73 千トン（42.8%）、販売 50 千トン（29.5%）となっている。他人所有圃場への利用には、耕種農家との稲わら交換や飼料用米生産等の耕畜連携の取組が含まれている。

（単位：千 t/年）

	ふん尿 発生量	仕向け量			堆肥量	堆肥利用状況			
		発酵 処理	乾燥 処理	直接還元 処理		自己所有 圃場	他人所有 圃場	販売	浄化 放流
乳用牛	56	44	6	6	38	18	12	7	0
肉用牛	165	151	13	1	112	25	56	31	0
豚	11	10	0	0	7	0	4	2	2
採卵鶏	17	14	2	1	12	2	1	9	0
肉用鶏	3	3	0	0	2	0	0	2	0
計	252	223 (88.3%)	21 (8.4%)	8 (3.3%)	171	46 (26.8%)	73 (42.8%)	50 (29.5%)	2 (0.9%)

注1：発生量は、家畜飼養頭羽数に原単位を乗じて算出したもの

※資料 ・表 3 家畜排せつ物発生量

・図 3 年次別家畜排せつ物総発生量

・別紙「堆肥の利用」

表1 畜産経営農家戸数および管理基準適用戸数

乳用牛	農家戸数		管理基準適用戸数	
		対前年比		割合
H23	69	94.1	68	98.6
H24	66	95.7	66	100.0
H25	62	93.9	62	100.0
H26	60	96.8	60	100.0
H27	57	95.0	55	96.5
H28	49	81.7	49	100.0
H29	48	84.2	48	100.0

肉用牛	農家戸数		管理基準適用戸数	
		対前年比		割合
H23	94	97.9	82	87.2
H24	93	98.9	81	87.1
H25	90	96.8	79	87.8
H26	88	97.8	82	93.2
H27	86	97.7	78	90.7
H28	80	90.9	73	91.3
H29	77	89.5	70	90.9

豚	農家戸数		管理基準適用戸数	
		対前年比		割合
H23	11	91.7	8	72.7
H24	7	63.6	4	57.1
H25	5	71.4	4	80.0
H26	5	100.0	4	80.0
H27	5	100.0	4	80.0
H28	5	100.0	3	60.0
H29	4	80.0	3	75.0

採卵鶏	農家戸数		管理基準適用戸数	
		対前年比		割合
H23	45	97.8	30	66.7
H24	42	93.3	29	69.0
H25	38	90.5	26	68.4
H26	38	100.0	25	65.8
H27	36	94.7	23	63.9
H28	33	86.8	20	60.6
H29	31	86.1	19	61.3

肉用鶏	農家戸数		管理基準適用戸数	
		対前年比		割合
H23	11	100.0	3	27.3
H24	11	100.0	3	27.3
H25	9	81.8	3	33.3
H26	10	111.1	3	30.0
H27	9	90.0	3	33.3
H28	8	80.0	2	25.0
H29	8	88.9	2	25.0

※管理基準とは家畜排せつ物法第3条に基づき、畜産業を営む者が遵守すべき基準
管理基準適用対象は、牛は10頭以上、豚は100頭以上、鶏は2,000羽以上

図1 畜産経営農家戸数および管理基準適用戶数の推移

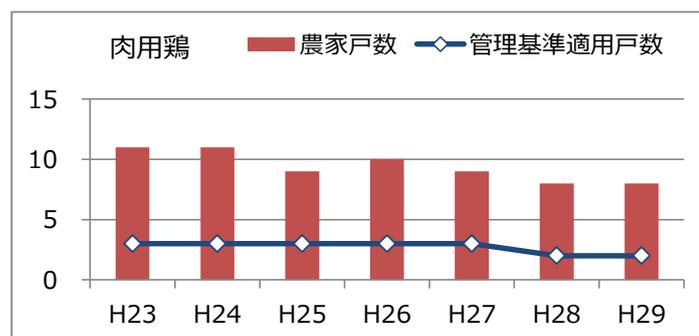
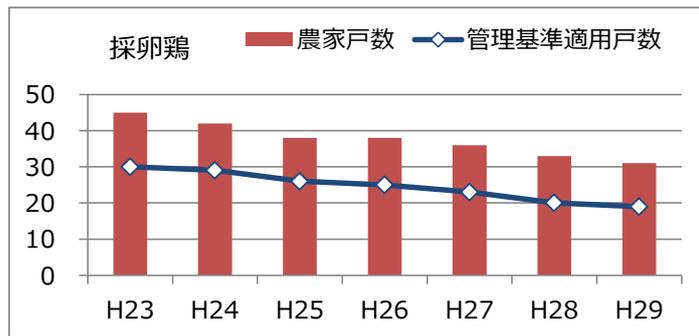
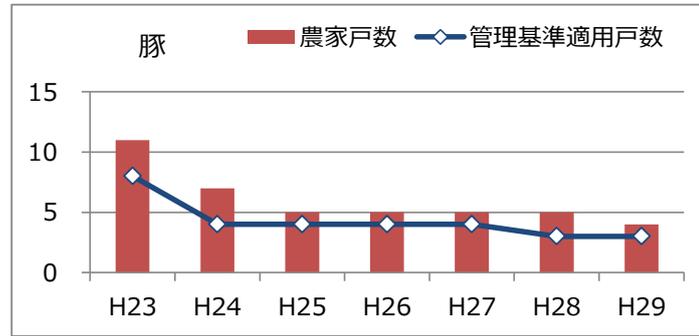
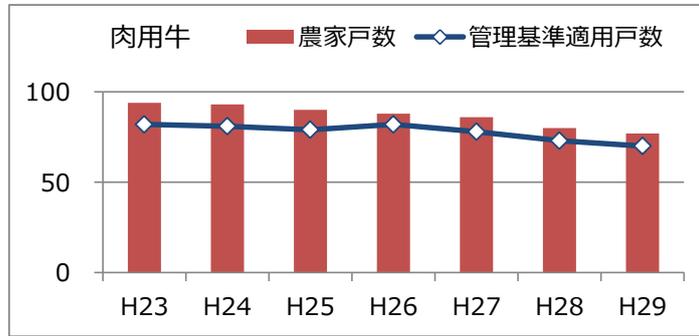
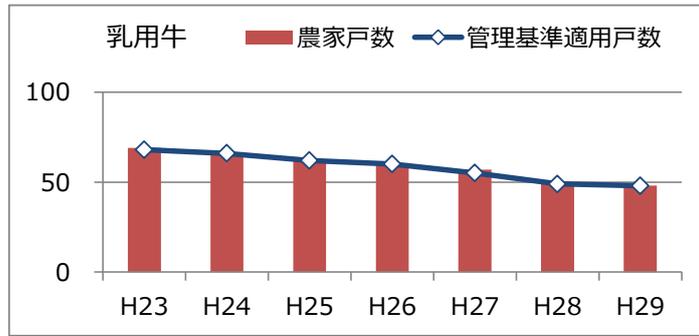
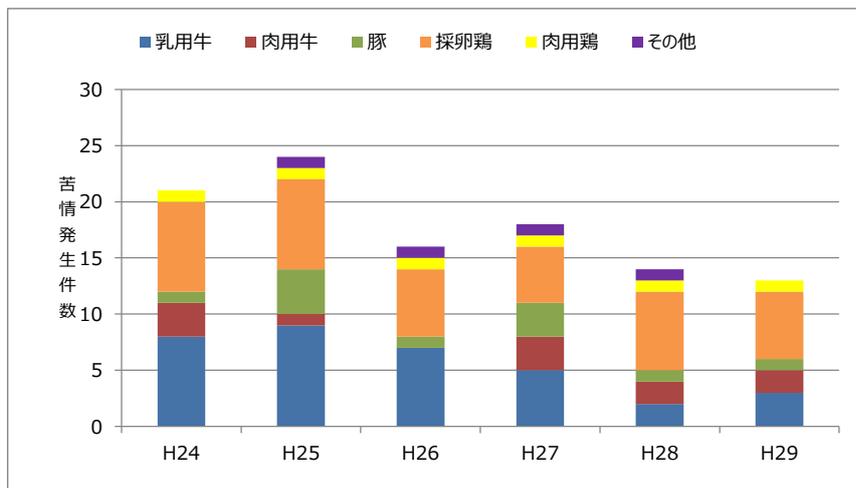


表2 畜産経営に起因する苦情の発生状況

年度	区分	苦情の内容							対応策					
		水質汚濁	悪臭発生	害虫発生	水質汚濁と悪臭発生	水質汚濁と害虫発生	悪臭発生と害虫発生	その他	計	処理施設助成	処理衛生技術指導	移転の斡旋	紛争の仲介	その他
24	乳用牛		7	1					8		8			
	肉用牛		1	1				1	3		3			
	養豚		1						1		1			
	採卵鶏	1	3					4	8		8			
	肉用鶏		1						1		1			
	計	1	13	2				4	1	21		21		
25	乳用牛		9						9		9			
	肉用牛		1						1		1			
	養豚		4						4		4			
	採卵鶏		7					1	8		8			
	肉用鶏				1				1		1			
	その他		1						1		1			
計		22		1			1	24		24				
26	乳用牛		6	1					7		7			
	肉用牛								0		0			
	養豚		1						1		1			
	採卵鶏		5					1	6		6			
	肉用鶏				1				1		1			
	その他		1						1		1			
計		13	1	1			1	16		16				
27	乳用牛		3					2	5		5			
	肉用牛							3	3		3			
	養豚		1		2				3		3			
	採卵鶏		2					3	5		5			
	肉用鶏				1				1		1			
	その他		1						1		1			
計		7		3			3	5	18		18			
28	乳用牛		1					1	2		2			
	肉用牛		1					1	2		1		1	
	養豚							1	1				1	
	採卵鶏		2					5	7		4		3	
	肉用鶏				1				1		1			
	その他		1						1		1			
計		5		1			6	2	14		9		5	
29	乳用牛		2					1	3	1	2			
	肉用牛		2						2		1		1	
	養豚							1	1				1	
	採卵鶏		2					4	6		3		3	
	肉用鶏				1				1				1	
	その他													
計		6		1			5	1	13	1	6		6	

図2 年次別苦情発生件数



	H24	H25	H26	H27	H28	H29
戸数(戸)	219	204	201	193	175	168
苦情発生率	9.6%	11.8%	8.0%	9.3%	8.0%	7.7%

表3 家畜排せつ物発生量

	総発生量 (t/年)					肥料成分推定量		耕地面積 (ha)			耕地面積あたり 窒素負荷量 (kgN/ha)	
	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	窒素 (tN/年)	リン (tP/年)	田	畑			
H 2 2	289,726	74,174	158,860	23,338	27,947	5,407	2,154	315	53,500	49,300	4,220	40.3
H 2 3	281,132	73,494	155,491	18,702	27,342	6,103	2,106	304	53,400	49,200	4,180	39.4
H 2 4	263,855	66,224	158,165	11,364	23,207	4,896	1,939	278	53,300	49,100	4,180	36.4
H 2 5	261,857	60,376	164,474	13,133	19,468	4,406	1,839	261	53,300	49,100	4,180	34.5
H 2 6	258,452	54,958	166,771	13,283	18,911	4,529	1,817	257	53,000	48,900	4,150	34.3
H 2 7	259,123	56,224	167,576	12,382	18,328	4,613	1,816	255	52,800	48,700	4,130	34.4
H 2 8	243,326	55,537	156,345	10,044	18,030	3,370	1,719	242	52,600	48,500	4,100	32.7
H 2 9	252,097	56,238	165,208	10,499	17,227	2,925	1,777	247	52,400	48,300	4,090	33.9

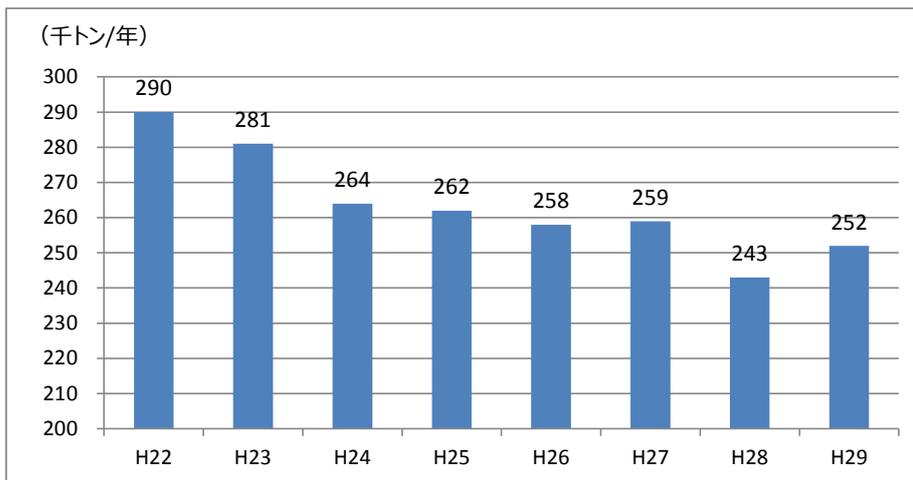
* 発生量および肥料成分推定量は、飼養頭羽数に原単位を乗じたもの

* 原単位は農林水産省農業研究センター公表¹⁾を使用

¹⁾: (財)畜産環境整備機構：家畜ふん尿処理・利用の手引き、3-5(1998)

* 耕地面積は、農林水産省平成27年産作物統計より

図3 年次別家畜排せつ物総発生量



家畜ふん尿の発生と家畜ふん堆肥の利用について

1. 生産と利用の経過

年度	家畜ふん尿発生量 (千t/年)	堆肥量 (千t/年)	利用可能面積(ha)	耕畜連携	
				利用率 (%)	利用量 (千t/年)
H 23	281	191	11,905	65.0	124
H 24	264	179	10,788	67.2	121
H 25	262	178	10,560	66.4	118
H 26	258	176	10,440	66.6	117
H 27	259	176	10,440	66.6	117
H 28	243	165	9,561	69.5	115
H 29	252	171	9,791	72.3	123

※利用可能面積は、堆肥量を畜種別利用可能量で除した面積

2. H29 生産と利用の状況

